

休眠預金活動事業「りぼら」は、がんサバイバーのための仕事のリハビリプログラムです。
この「りぼら」をスタートさせるにあたって、昨年（2020年）夏にロゴとキャラクターの原案を募集しました。
そして選ばれた入選作品を元にデザイナーの望月ミサさんにより生み出されたのが、このロゴとキャラクターです。
これから3回にわたって、その入選作品を生み出した方々のストーリーをお届けします。

第1話は、「りぼらロゴ」の誕生秘話になります。

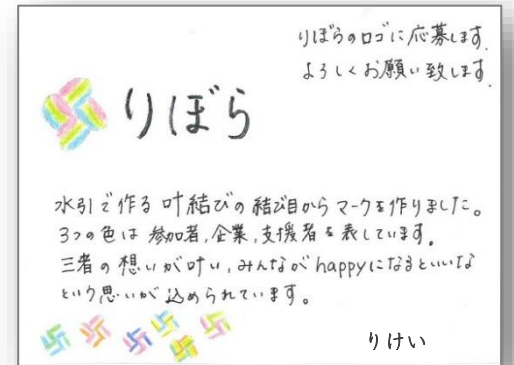
第1話【りぼらロゴ】りけいさんのストーリー

JCDA：この度はロゴ部門でのご入選おめでとうございます。
まず、このロゴに込められた想いについてお聴かせください。



りけいさん：このロゴは、水引の「叶結び（かのうむすび）」
です。「叶結び」には「人の願いが叶う」という意味があると
知り、人と人がつながる、願いが叶う象徴として描きました。

また、暗くなりがちな患者さんを温かく支援するイメージを
パステルカラーで表現できたら良いなあと、主人と一緒に
考えました。

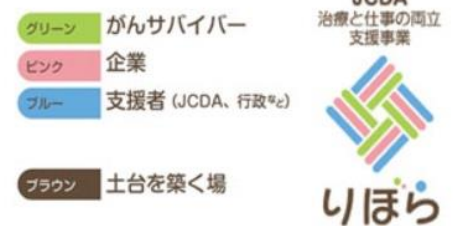


JCDA：りけいさんの作品が入選作品として決まり、この
アイデアを基にデザイナーの望月ミサさんと相談し、

- 人生を再構築していく患者さんの新たなスタートや
命の芽吹きをイメージした緑色
- 患者さんを優しく受けとめ協働していく企業をピンク色
- 行政・支援者として聡明かつクリアであたりたいという
想いを青色

という意味を込め、この3色が決まりました。

なお、この3色やパステルカラーも、りけいさんの原案をほぼそのまま活かすことができました。



また、実際に水引で使われる「叶結び」の結び目の中心には空間がないのですが、このりぼらロゴ
には中央の結び目に空間を設けました。この空間は、「心のサードプレイス」を表しています。患者
さん1人ひとりが「どうありたいか」、自身のキャリアを決めていくためには、その人が「自分自身
になれる場所」、患者さんの心のサードプレイスの存在がとても重要です。りぼらをそのような場所
にしたいという想いを込めて、結び目の空間を、その象徴としたのです。

りけいさん：私の想いを大切に扱ってくださりありがとうございます。

とても深い意味が込められているんですね。

キャリアカウンセラーさんって、患者さんの居場所を作ってくれる人なのかなと思います。悩みが完全に解決しなくても、安心して話すなかで、次へ踏み出す一歩を考えられる場所って大切だと思います。元気が出ると進めますから。

私自身、今からは想像出来ないほど落ち込み長く閉じこもってきました。

きっと今この瞬間にも、苦しい思いをされている方もいらっしゃると思います。でも、ここに来る（りぼらに参加する）ことで、同じような思いを抱いている仲間と話したり、りぼらのカウンセラーさんに相談したりすることで元気を貰い、互いに支えあう中で「私はこう生きていく」という、自分なりの「希望」を見出せるといいなと思います。その希望を支えてくれる人がいて、やりたいことが見つかったら、さらに嬉しいです。苦しい思いは一生つきまとうかもしれないけれど、1日の中で少しでもハッピーになれば、生きていけるのかな、って思うんです。私、今一番幸せですもの。病気であっても無くても、患者さんのご家族など誰が来てもいい、みんなの心のサードプレイスにりぼらなることを願っています。

JCDA：りけいさんがおっしゃる通り、少し先の未来への「希望」が「頑張る」「前を向く」気持ちへとつながっていくと本当にいいですね。また、りぼらで話すことが少し先の未来の「楽しみ」にもつながるよう、JCDAとしてりぼらを盛り立てていきたいと思います。■